

# 岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・5 vol.428

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉

## 救援物資、震災募金への御礼

この度の東日本大地震・大津波大災害に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟建設工事起工式

〈写真撮影：4月23日(月) 関連記事P7〉

### おもな内容

- 巻頭言 医学部長就任ご挨拶 医学部長 小林 誠一郎
- 平成24年度事業計画
- 特集 災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟の整備計画について  
企画部長 兼 事業推進部長 遠藤 厚
- トピックス 3学部合同学生セミナーが行われました
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.37 職場のメンタルヘルスにおけるセルフケア  
健康管理センター 臨床心理士 畠山 秀樹

## 医学部長就任ご挨拶



医学部長 小林 誠一郎

**こ** の度、4月1日付で医学部長を拝命致しました。身に余る重責ではございますが、鈴木一幸前医学部長の御業績に恥じぬよう、様々な問題の改善と全体の調和を旨として着実に歩みを進めたいと思っております。

**思** い起こせば、副院長、院長とおおよそ10年の長きにわたり病院運営に携わってまいりました。DPCの導入、診療録の中央化、クリニカルパスの導入、医療材料の見直し、医療安全・感染対策の拡充等々を経験し、幸いにも教職員の皆様の並々ならぬご協力をいただき、大過なく運営できたような気がしております。今後は、得られた経験を活かし、教育・研究の推進に努力いたしたいと思っております。

**さ** て、薬学部が加わり、本学が医歯薬総合大学として新たに歩み始めて6年目を迎えます。3学部共通カリキュラムの導入や医歯薬総合研究所の活動などの三学部の横断性に加え、各学部の独自性、すなわち縦と横のリンクが本学の特徴であり、さらなる基盤形成を推し進める必要があります。

**医** 学部独自の教育に目を転じれば、休む暇のないカリキュラムを十分消化できず留年のやむなきに至る学生がいることは大変悩まし

い問題です。厳しい入学の難関を突破し、受験勉強からの解放感でホッとした時期の1、2学年から、医師になるという初心を忘れず、勉学の習慣を怠ることなく過ごし、少しずつであっても勉強の継続と積み重ねが躓く前の強固な杖となるよう改善を続けたいと思っております。必要な履修範囲の提示とその理解、不十分な習得部分の明確化とそれに対する補強策など、定員増をも踏まえ、重点課題として今後とも継続した改善を図る所存です。

**研** 究面等に目を移すと、今年度は震災関連の各種大型補助が策定されつつあります。被災地の健康コホート、災害医学推進関連事業、心のケアサポート事業などです。被災地支援を基盤とし、岩手県医療全体の向上につなげるべく、また、全国に発信できるモデル事業とするべく、大学全体として取り組む大きな課題です。一方で、矢巾への病院移転という大きな事業が控えており、本年度は大学変革の命運を左右する一步を踏み出す年とも言えましょう。良い医療の提供、また教育と研究の基盤となる大学の発展を目ざし、確実な歩みを進めて行きたいと思っております。

**教** 職員の皆様には、今後とも継続したご協力、ご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

# 平成24年度 事業計画

## 1. 背景と方針

### (1) 教育における取り組み

本学は、わが国で初めて医療系三学部を同一キャンパスに揃えた総合大学として、三学部の強固な連携の下、世界的にもユニークな学部の枠を越えた教育を開始している。平成24年度は一層の連携を強化するとともに、各学部のレベルアップに努め、新時代に対応した「誠の総合医療人」を育成する。

### (2) 研究における取り組み

世界最高峰の7テスラMRIの導入、医歯薬総合研究所の設置により開始されている学部横断的・学際的な最先端の研究を推進し、広く成果を発信する。

### (3) 医療における取り組み

総合移転整備計画の最終段階となる附属病院移転及び内丸地区の整備事業の一環として、平成24年度にはドクターヘリの運航を開始、災害に強い基幹拠点病院として基本設計に着手する。

また、既存の附属病院は、施設の有効活用、充実により、病院収入の増加を図るとともに後発医薬品への切り替え、医療材料の適切な管理を徹底し、医療経費の節減に努める。

### (4) 東日本大地震・大津波大災害を受けた取り組み

本学は発災以来、岩手県の医療を統括し、安定的な医療の供給に努めてきた。今後も地域医療の再生に向けて長期的な医療支援を継続するものとする。

被災地は、もとより慢性的な医師不足が続いてきた地域であるため、新たなまちづくりの進展に連動しながら、保健・医療・福祉の各機関との医療ネットワークを構築し、効率的で質の高い医療の提供に努める。さらに、災害時教育と地域医療支援の核となる拠点の整備を行う。

### (5) 矢巾キャンパスの整備

かねてより進めていた総合移転整備計画第二次事業は震災前に完成し、矢巾キャンパスは本学の教育・研究活動の拠点となった。平成24年度は、広大な敷地の緑化を進めるとともに、キャンパスアメニティの一層の充実を図り、魅力あふれるキャンパスの環境整備に努める。

### (6) 広報における取り組み

大学の諸活動は効果的な手法により本学の特色を広く周知し、大学に対する適切な認知を図り、独自性を推進するとともに、患者増、入学生確保にも繋げる。

## 2. 主要な事業計画について

### (1) 総合移転整備計画関係

- ①附属病院移転及び内丸メディカルセンター整備に係る基本設計の推進
- ②日赤岩手乳児院等の敷地取得についての協議
- ③マルチメディア教育研究棟の建設
- ④矢巾キャンパス緑化事業の推進

### (2) 教育・研究関係

- ①教育環境と教育体制の整備並びに地域医療に貢献する医師の養成と確保
- ②学際的研究の推進
- ③医師国家試験・歯科医師国家試験の合格率向上対策
- ④薬剤師国家試験の高合格率対策
- ⑤大学院薬学研究科の設置認可申請及び認可後の開設準備
- ⑥就職支援の推進
- ⑦医療専門学校の入学生の確保
- ⑧医療専門学校の国家試験合格率の高位維持

### (3) 補助事業及び委託事業関係

- ①私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費補助金による機器更新
- ②私立大学等研究設備整備費等補助金による機器更新
- ③私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進

- ④オーダーメイド医療実現化プロジェクト
- ⑤がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
- ⑥岩手こころのケアセンター運営事業
- ⑦革新的医療機器創出・開発促進事業
- ⑧岩手県ドクターヘリ導入促進事業
- ⑨災害時地域医療支援教育センター事業
- ⑩地域医療支援センター運営事業

### (4) 医療関係

- ①病院情報システムの充実
- ②高精度放射線治療の整備と呼吸同期肺定位照射の実施
- ③循環器医療センター外来診療室拡充工事
- ④歯科医療センターの外来再編
- ⑤病院アメニティーの改善

### (5) 施設設備関係

- ①矢巾キャンパスへの弓道場及びアーチェリー場整備
- ②西病棟並びに花巻温泉病院地下重油タンク修繕工事
- ③救急センター非常用発電機始動用直流電源装置更新工事
- ④循環器医療センター気送子中央制御装置更新工事
- ⑤循環器医療センター6階ナースコール設備更新工事

※本紙掲載内容は、平成24年度事業計画書より抜粋したものです。詳しい内容に関しては、平成24年度事業計画書及び本学ホームページ「情報公開」をご参照ください。



# 災害時地域医療支援教育センター・ マルチメディア教育研究棟の 整備計画について



企画部長 兼 事業推進部長 遠藤 厚

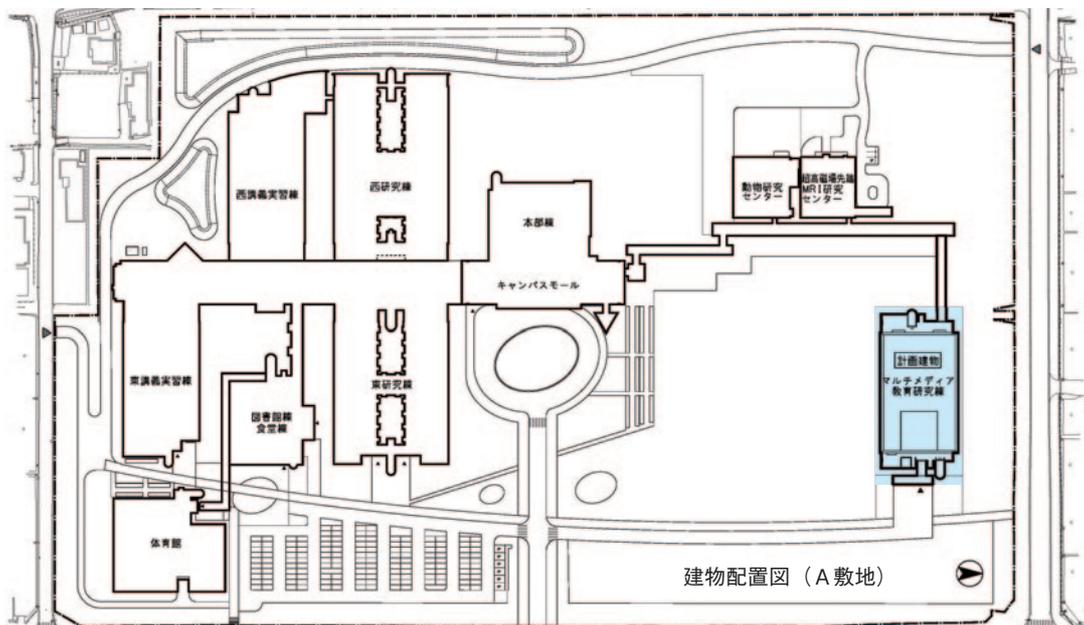
平成23年3月11日に発生した東日本大地震・大津波大災害により、本県を含む東北沿岸部が壊滅的な被害を受け、通信手段や交通手段が遮断された中で、本学は地域の災害医療の拠点として、様々な救命活動・医療支援活動を行ってきました。しかしながら、「未曾有の大震災」による災害と被害の大きさは想像以上のものであり、通信設備や電源・燃料等の確保の重要性を改めて認識するとともに、将来の災害に備え、新しい災害医療と医療支援体制のあり方を考える必要性があることを教えられました。

このことから、本学では新たに災害医学講座並びに災害・地域精神医学講座を新設し、今後継続して災害医療を担う人材の育成と、震災により精神的負担を抱える被災者のこころのケアに努めていくとともに、遠隔医療システムの導入による災害医療ネットワーク整備を図り、より一層の自治体・関係機関との連携強化の下、全県を挙げた医療支援・協力体制の構築を目指していくことが、県内唯一の医療系総合大学であり、且つ災害拠点病院でもある本学の重要な責務であると考えております。

以上を踏まえ、今回、国並びに県からの補助金を一部活用し、本学矢巾キャンパスに災害医療支援の活動拠点となる「災害時地域医療支援教育センター」を立ち上げるとともに、将来的な図書・情報関連機能の統合を想定し、同一建物内に将来拡充スペースを確保した「マルチメディア教育研究棟」を整備することが理事会で決定いたしました。本棟の主な整備機能は次のとおりです。

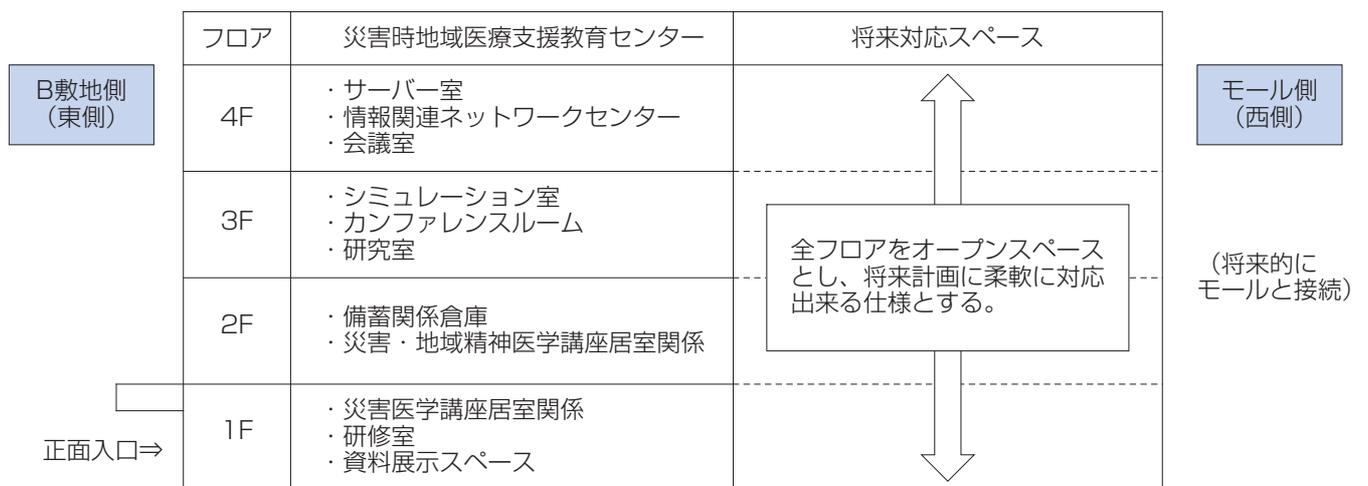
- 1) 災害医療における各種研修や教育環境の整備
- 2) 災害医学講座、災害・地域精神医学講座の活動・研究拠点の整備
- 3) 各種医療連携システム等を活用した医療支援ネットワークセンターの構築
- 4) 各種研究・教育に係るシミュレーションセンターの整備
- 5) 災害時活動拠点としての備蓄施設並びに発電機、無停電装置（CVCF）等の整備
- 6) 将来的な図書・情報部門の統合・拡充を想定したメディア関連機能の建物一括整備

上記に加え、本棟は東講義実習棟と同等規模の4階建て総面積約9,500㎡を確保するとともに、配置については将来的な新附属病院とのアクセスを考慮し、キャンパス正面玄関を中心として建物が対称となるような配置計画としております。



本棟は「災害に強い建物」をコンセプトに、全建物を「免震構造」設計とし、電源設備では非常用として300kVAの非常用発電機を設置。災害時には燃料の補給なしで、熱源で最大7日、発電機で最大3日分の電源供給が可能となる共用のオイルタンク(15,000ℓ)を確保しております。また、給排水設備については、単独の受水槽、緊急排水槽を有し、災害時に給水が遮断された場合には、1日300人を目安として、飲用水7日、雑用水(トイレの排水等)1.5日、緊急下水用として約3日分が使用出来る設備となっております。その他、将来的な情報部門の統合とサーバー・ネットワーク関係の集約化を想定し、大規模な100kVAの無停電電源装置(CVCF)を設置することで瞬時の停電や将来的な拡充にも対応が可能であり、災害時にも建物全体が独自に稼働出来るような設備体制を整えております。

各階の主な構成としては、1階に災害医学講座居室関係と研修室(2室)、2階には災害・地域精神医学講座居室関係と備蓄関係倉庫を配置し、2つのフロアで各種研修や研究において相互に協力体制が取れるような動線を確保しております。3階には臨床技術トレーニングが可能なシミュレーション室を配置、4階には大規模なサーバー室を有した情報・ネットワーク部門の整備を行います。また、キャンパスモール側の将来拡充スペースは全フロアをオープンスペースとし、今後の計画に合わせ柔軟に対応出来る仕様としております。



各フロア構成図(北側から見た断面図)

本棟は本年4月23日に建築工事の起工式が行われ(P7参照)、4月27日に着工、平成25年3月末の完成予定であり、同年4月からの運用開始を予定しております。将来の附属病院移転を視野に入れ、先に導入されたドクターヘリとの連携体制を取りながら、新たなる災害医療の実践教育・研究推進に努めていくとともに、今後の地域復興と地域医療の更なる向上に向けた連携体制構築の中核拠点としてその役割が期待されます。



建物完成予想図

## 平成24年度入学式を挙りました

岩手医科大学の入学式が、4月5日(木)午前10時から岩手県民会館大ホールで行われました。今年度の入学生は、大学院医学研究科博士課程43名・修士課程1名、歯学研究科博士課程6名、医学部120名・3年次編入学6名、歯学部35名・2年次編入学4名、薬学部148名でした。

式では、入学生一人ひとりの名前が読み上げられ、小川学長が入学の許可を宣言しました。続いて、医学部の佐藤 悠哉 さん(左)と歯学部の田口 美加 さん(右)、薬学部の菅原 安代 さん(中)が入学生を代表して宣誓を行いました。

小川学長は式辞の中で「学部の垣根のない教育環境の下、患者中心の医療、チーム医療の根幹を学び、『医療人である前に、誠の人間であれ』の言葉の重みを胸に刻み、学生生活を通じ、医療人としての基本である、人格・人間形成に努めて頂きたいと思いま

す。」と激励しました。

岩手医科大学医療専門学校の入学式は、4月7日(土)午前10時から歯学部棟4階講堂で行われ、歯科技工学科17名、歯科衛生学科32名の入学生を迎えました。

式では、入学生一人ひとりの名前が読み上げられ、三浦校長が入学の許可を宣言し、教職員・父母・在学生が見守るなか、歯科技工学科の山崎 孝真 さん(左)と歯科衛生学科の伊藤 梓 さん(右)が入学生宣誓を行いました。

三浦校長からは「これからの学生生活では、初めて出会う専門用語や実習に戸惑い、悩むこともあると思います。その時は、知らないことは知る努力を、できないことはできる努力を、そして、歯科衛生士あるいは歯科技工士を目指して本校の入学試験に臨んだ時の意気込みを思い起こして下さい。」と式辞がありました。



岩手医科大学入学式



岩手医科大学医療専門学校入学式

## 新入職員辞令交付式が行われました



本法人の平成24年度新採用者に対する辞令交付式が4月2日(月)午前9時30分から歯学部棟4階講堂において行われ、採用者216名が辞令書の交付を受けました。

式典では、新入職員の呼名の後、新入職員を代表して専門研修医(医学部内科学講座消化器・肝臓内科分野)の亀井 将人 さん(左写真)が辞令を受けました。その後は小川理事長の式辞に続いて、看護師(東9階)の小田 成美 さんが誓詞を述べました。

辞令交付式後は、職種ごとに分かれてのオリエンテーションが行われ、新入職員の皆さんは真剣な眼差しで参加していました。

### ◆新入職員内訳は次のとおりです

助教17名、専門研修医12名、臨床研修医7名、臨床研修歯科医53名、事務員9名、薬剤師6名、臨床検査技師3名、診療放射線技師1名、栄養士1名、臨床工学技士3名、作業療法士1名、歯科衛生士1名、写真技術員1名、技術員補1名、自動車運転手1名、看護師99名

## 3学部合同学生セミナーが行われました

4月21日(土)・22日(日)、八幡平市安比高原のホテル安比グランドにおいて、3学部6年生を対象とした

合同セミナーが行われました。3学部の学生と教員とが参加したこのセミナーは、各学部のそれぞれの特性を生かして問題解決を図り、チーム医療の意義を確認することを目的としたもので、本学では初めての催しとなりました。

セミナーは、小林医学部長の開会挨拶で幕を開け、同部長による「我々の目指すチーム医療とは」と題した講演に続き、各学部の教授による講演が行われました。その後は、3学部混成グループに分かれて症例テーマの病態・治療法・薬の処方などを討議し、教員も交えて医学・歯学・薬学の知を結集した討論や発表が行われました。 写真提供：薬学部分子生物薬学講座 前田 正知 教授



グループワークの様子



グループ発表の様子



教員も参加した討論の様子

## 災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟 建設工事起工式を挙行了しました

4月23日(月)午前11時から矢巾キャンパスA敷地内において、災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟建設工事起工式が執り行われ、本学関係者や岩手県、矢巾町、工事関係者等約50名が出席しました。

害の教訓を活かし、今後継続する被災地医療支援活動の拠点として、また、将来起こり得る様々な災害に対応できる人材の育成に資するため、施設の検討を重ねてまいったものであります。本学は今後も、地域医療を担う有為な人材を育成するとともに、安心して質の高い医療の提供に努め、地域の皆様の生命を守り、健康の向上に貢献してまいりますことをお誓い申し上げます。」と施主挨拶を述べました。

神職による神事では、関係者による地鎮の儀や玉串奉奠などが行われ、関係者全員で工事の安全を祈願しました。神事後には、小川理事長が「本センターの建設構想は、昨年発生いたしました未曾有の大災



玉串を捧げ安全を祈願する小川理事長



施主挨拶を述べる小川理事長



# 理事会報告

## ■ 3月定例（3月26日開催）

- 平成23年度補正予算について
- 平成24年度事業計画について
- 平成24年度予算について
- 役職者の選任について  
学生副部長（再任） 小豆嶋 正典  
（任期 平成24年4月1日から平成27年3月31日まで）  
附属病院副院長（再任） 佐藤 譲  
（任期 平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）  
附属病院副院長（再任） 藤岡 知昭  
（任期 平成24年4月1日から平成26年3月31日まで）  
附属病院副院長（新任） 江原 茂  
附属病院副院長・循環器医療センター長（再任） 岡林 均  
附属病院副院長・歯科医療センター長（新任） 杉山 芳樹  
高度救命救急センター副センター長（新任） 井上 義博  
（任期 平成24年4月1日から平成27年3月31日まで）
- 理事の選任について  
第5号理事（新任） 酒井 明夫  
（任期 平成24年4月1日から平成27年2月22日まで  
（他の理事の残任期間））
- 理事の職務担当区分について  
・医学部、財務関係の新担当：小林 誠一郎理事  
・附属病院、人事関係の新担当：酒井 明夫理事  
・労務関係の新担当：祖父江 憲治理事、酒井 明夫理事
- 評議員の選任について  
第4号評議員（新任） 酒井 明夫  
（任期 平成24年4月1日から平成28年3月31日まで  
（他の評議員の残任期間））
- 教育職員の人事について  
医学部救急医学講座 教授 井上 義博（前准教授）  
統合基礎講座解剖学講座機能形態学分野 教授  
藤村 朗（前特任教授）  
歯学部歯科保存学講座歯周療法学分野 教授  
八重柏 隆（前准教授）

- 歯学部補綴・インプラント学講座 教授  
近藤 尚知（前准教授）  
医学部内科学講座循環器内科分野 准教授  
伊藤 智範（前講師）  
医学部救急医学講座 准教授 吉田 雄樹（前講師）  
医学部内科学講座消化器・肝臓内科分野 特任准教授  
遠藤 龍人（前講師）  
医学部内科学講座循環器内科分野 特任准教授  
房崎 哲也（前講師）  
（発令年月日 平成24年4月1日付）

- 組織規程の一部改正について  
①教育研究組織機構図  
廃止：先進歯科医療研究センター、超高磁場 MRI 研究施設  
名称変更：（変更後）超高磁場先端 MRI 研究センター  
（変更前）超高磁場先端 MRI 研究所  
②組織規程及び附属病院組織機構図  
・臨床工学室を臨床工学部に変更し、中央診療部門に位置付け  
・歯学部臨床講座の再編に伴う歯科診療科の再編  
再編診療科（再編後）：口腔総合診療科、高度先進保存科、高度先進補綴科、歯科放射線科  
再編診療科（再編前）：口腔診断科、口腔総合診療科、高度先進歯科（保存系・補綴系）
- 運営協議会規則の一部改正について  
運営協議会の出席者に学生部長を追加したことに伴う同規則の一部改正
- 職員就業規則の一部改正について  
ドクターヘリの運航開始に伴い、交替等の勤務及び時差勤務の勤務時刻表等を一部改正
- 教育職員の定員に関する規程の一部改正について  
医学部の臨床遺伝学科の新設及び歯学部臨床系講座の再編に伴い、医学部教育職員定員表及び歯学部教育職員定員表を一部改正

深緑の季節になり、冬期閉鎖道路が開放され、大好きな湯巡りが本格化です。岩手近辺の温泉は様々な泉質だけでなく、様々な色をしています。一般的な温泉のイメージ色は透明や白ですが、青、緑、茶色など多彩です。遠方から来られる人に「何色の温泉に入りたいですか？」とあらかじめ聞くと、多くはこの多彩さに驚きます。森林浴や散策とともに変わった色の温泉に体を沈めてみてはいかがでしょうか。（編集委員 下山 佑）

## 岩手医科大学報 第428号

発行年月日 平成24年5月31日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111（内線7023）

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

# すこやか スポーツ医学講座 No. 37

健康管理センター

臨床心理士 畠山 秀樹



## 職場のメンタルヘルスにおけるセルフケア

平成10年以降、国内の年間自殺者総数が3万人を超え、労働者も8～9千人前後で推移しており、職場のメンタルヘルス対策は重要な課題となっています。対策として、平成18年に厚生労働省から「労働者の心の健康の保持増進のための指針」が公表され、職場のメンタルヘルスに必要なケアの1つとしてセルフケア（労働者によるケア）が位置付けられています。ここではセルフケアについてご紹介します。

### セルフケアとは？

セルフケアとは、自分で自分のストレスに気づき、対処することです。つまり、自分自身へ目を向け、ストレスからの影響をコントロールしながら、ストレスとうまく付き合っていくことです。

### セルフケアに取り組むうえで

まずは自分のストレスへ目を向ける習慣を作ることが重要で、以下の出来事や反応がストレスに気づくポイントになります。



#### 【ストレスを引き起こす出来事】

- 職場：役割・地位の変化（入職・昇進・異動）  
仕事の質・量の変化（長時間労働）  
仕事上のトラブル（ミス・人間関係）
- 職場外：生活・環境の変化  
私生活の出来事（病気・家庭問題）

#### 【ストレスに対する反応】

- 心理面：気分が沈む、イライラする、  
過度な緊張・不安、意欲の低下
- 身体面：不眠、食欲不振、動悸、疲労感
- 行動面：作業効率の低下、ミスの増加、  
攻撃的になる、人と疎遠になる

上記の出来事が重なったり、反応が長引く場合には、早めの対処が必要です。

そこで次に、ストレスへの対処です。状況に応じて対処は様々ですが、以下の方法を日常的に実践することでストレスからの影響を軽減することができます。

#### 【ストレスへの対処方法】

- 適切なサポートを得る（自発的な相談）
- 規則正しい生活と積極的な休養
- 仕事と私的な時間の切り替え
- 楽しむ、安らぐ時間の確保（趣味等）
- リラクゼーション法の活用

### おわりに

自分なりのセルフケアでうまくいかない場合、本学職員の方であれば健康管理センターへの相談をご利用いただけますので、どうぞお気軽にご相談ください。また、セルフケアに関するセミナーも企画しておりますので、ご参加ください。

#### 第97回大学報編集委員会

日 時：平成24年5月17日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：影山 雄太、齋野 朝幸、小山 薫、山尾 寿子、佐々木 光政、佐々木 さき子、昆 由美子、佐々木 忠司、  
鈴木 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子